地域おこし協力隊 活動記 Vol.110

観測史上最深の積雪を記録した今年の冬。畑などにはまだ雪原が残っていますが、少しずつながら春の足音が聞こえてきました。白い雪をかき分けて黄色いフクジュソウが顔を出しているところもあります。わたし（加賀）の家のまわりにも、鳥たちが集まってくるようになりました。

と書いているのは3月の末で、本誌が出るころにはもう桜も開花し、もしかしたら汗ばむような陽気になる日もあったりするかもしれません。

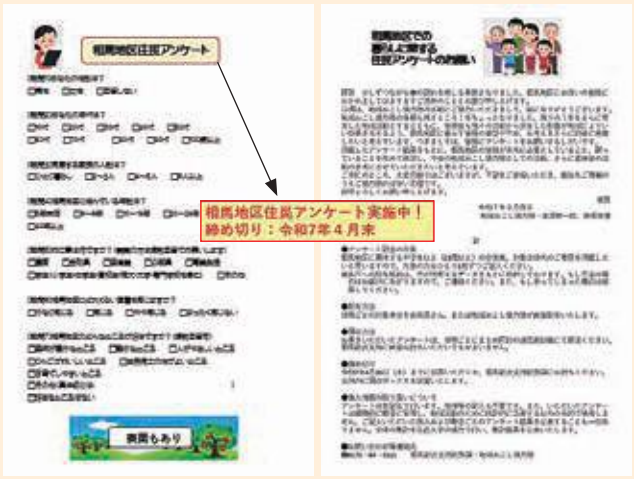
地球の長い歴史から見れば、気候は幾度となく大変動してきましたが、昨今の極端な気象はじつに厄介です。大雪が降ったかと思えば山火事が頻発したり、外出が危険なほど暑い日が続いたり……。

気候の変動は、岩木山の雪形を見ても感じられます。去年今年と、名物だったヤギや青森県の形をした雪形を拝めませんでした。公式の標高が1m下がったとはいえ岩木山が山崩れを起こした形跡はありませんので、やはり雪の降り方が変わってしまったのでしょう。昔は雪形を見て田起こしや田植えの時期を判断した時代もあったそうですから、雪形が変わるのは大変なことだったに違いありません。

環境の変化によって暮らし方を変えるのは、いつの時代も人々にとってつねに大きなテーマなはずです。相馬地区も相馬村時代に比べると環境がだいぶ変わってきたことと思います。少子高齢化は全国的な問題で抗い難き潮流なのかもしれません。一方で、相馬にはそれこそ数千年前の縄文時代から積み重ねてきた歴史と文化があります。移り行く時代の中で、何を残し何を変えていくか、いまを生きる相馬の人々が本当に何を望み、何に困っているか、どういう相馬地区でありたいのか――いま、あらためてきちんと把握する必要があるのではないでしょうか。視察や資料などで見た他府県のいわゆる限界集落に比べれば、相馬はまだ高齢者率も低く、地域資源も豊富、何より地域に対する想いも熱いように思います。まだまだよりよくするための余地は十分にあるはずです。

ということで、このたび中学生以上の全住民を対象にしたアンケートを実施しました。相馬の人々が何を求めているか、何を想っているか、どんな地域にしていきたいのか、率直なところを浮き彫りにして、今後の活動に生かしていきたいと考えています。皆様におかれましては、ご多忙のことと存じますが、どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。

2023年春に撮影した岩木山。やや左寄りの雪形が名物のヤギ。雪が少なかった24年は見られず。今年は？



相馬地区の皆様にお配りしたアンケート用紙

（＊）相馬地区公式HP（http://www.city.hirosaki.aomori.jp/soma/）